

『議会報告会』を開催

開かれた議会をめぐりして

日野町議会では議会改革の取り組みとして、通算7回目の議会報告会を10月18日

(水)に鎌掛公民館で、翌19日(木)には東桜谷公民館で開催し、計49名の方に参加いただきました。



▲鎌掛公民館

始めに、各常任委員会委員長3名(総務・産業建設・厚生)と各特別委員会委員長2名(人口減少対策・地域経済対策)から現在の行政課題について、議会活動報告を行いました。

次に、今回のテーマである『人口減少対策』および『地域経済対策』、町の現状と課題等について、参加者の皆さんと議員が意見交換を行いました。道路整備や雪寒対策をはじめ、企業誘致、市街化調整区域での住宅建

築、旧平和堂の跡地利用、町の活性化や現在の日野の特徴をいかしたまちづくり、自治会での役職の見直しなど、大変貴重な意見や提案をいただきました。

いただいた意見や提案などの諸課題について、議会としてどのように取り組んでいくべきか、議員間で討議を重ね、議会活動に反映してまいりたいと思います。

今後も町民の皆さんからのご意見やご要望をお聞きしながら、地域の課題について話し合える機会を設け、町民の皆さんに信頼される開かれた議会に努めていきます。



▲東桜谷公民館

税金は期限内に納めましょう！

もう一度、納め忘れがないかお確かめください。

皆さんから納めていただく町税は、福祉・医療・教育・ごみ処理等の身近な行政サービスに使われる大切な財源として役立っています。

県と町では、12月を「ストップ滞納!!強化月間」として、税の公平な負担の観点から、一斉に滞納整理を強化します。

税金を滞納すると

どうなるのでしょうか

町税には納付期限が定められています。期限後20日を過ぎても納付がないと督促状(1件200円)が発行され、延滞金(年率14.6%以内)が課せられることになります。さらに滞納のまま放置すると、財産(預貯金・給与・不動産等)の差押え等、滞納処分を行うよう法律で定められています。平成28年度は、91件14,838,894円の差押えを行いました。

どうしても期限内に

納められない場合は…

病気や失業、事業の業績不振などのやむを得ない理由や多重債務などにより、一時的に町税を各期限内に納付することが困難な方については、一人で悩まず、放置せずに早めにご相談ください。税務課にて納付相談を行っています。

ただし、虚偽の申し出や納付計画を守らず不履行になった場合は、滞納処分により強制徴収の対象となります。

納税者間の公平性確保と滞納額の縮減に努めています

町では、税の公平性と安定的な財源の確保のため、収納率の向上と滞納額の縮減に向けた取り組みを行っています。また、県と県内市町では、「滋賀地方税滞納整理機構」を設置し、連携・協働して県税と市町税の滞納整理を推進しています。

問い合わせ先 ◆ 議会事務局 ☎0748-52-6551

問い合わせ先 ◆ 税務課 収納担当 ☎0748-52-6570

温故知新

日野画壇と高田敬輔

江戸時代中期以降、日野では多彩な絵画文化が華ひらき、多くの画人たちが活躍しました。これら画人たちの祖となったのが高田敬輔です。

高田敬輔(一六七四—一七五五)は日野大窪杉野神町の生まれで、はじめは日野椀や合薬を商う日野商人でしたが、画業を志し京狩野の総帥・狩野永敬の門に入って画道に励みました。師の没後は仁和寺法親王に仕え、また華頂の義山にしたがつて浄土宗の教義を学び、画事をつとめました。

ある時、飘逸の浄土宗画僧・古欄明誉に出会い、「君の筆は力強く勢いがある。ぜひとも雪舟にならいたい」との助言を受け、雪舟の画風を学んで独自の画風を確立させました。

近江日野商人ふるさと館 旧山中正吉邸

秋季企画展「高田敬輔墨黒自在」12月10日まで開催中

館蔵の敬輔作品のほか、町内の旧家に伝来した作品や、弟子の島崎雲圃が描いた敬輔の肖像画などを展示。期間中の土日祝日は、点数を増やして特別陳列しています。この機会にぜひご覧ください。

お問い合わせ ふるさと館 ☎0748-52-0008

敬輔は、竹隠齋・眉間毫翁を号し、会得した画技と人脈を背景に全国を行脚し、各地で名声を博しました。寛保3延享年間に訪れた江戸においては、数々の大名や幕府要人から揮毫を求められ、時の将軍徳川吉宗にも作品を献上しています。

江戸滞在後、八二歳で亡くなるまでの晩年は故郷日野で過ごし、画業に励むかたわら、月岡雪鼎・島崎雲圃・高田敬徳をはじめ多くの門人を育てました。

画事多彩く仏画と水墨画く

仁和寺に仕え、義山に仏法を学んだ敬輔は、熱心な仏教信者となり、多くの仏画を残しました。代表作である「無量寿経曼荼羅」を見た義山は、「仏教への信仰心を絵画で表現できる真なる人物である」と評

致と墨の濃淡を自在に操る水墨の技法を駆使して、得意とする富士・淡水魚・七福神をはじめ、山水・花鳥・人物・風景など多彩な作品を描きました。

仏画と水墨画という二つの特徴を兼ね備え、敬輔独自の技法が如何なく発揮されているのが、日野村井の信楽院本堂に描かれている天井画です。寛保3(1743)年、敬輔が70歳のときに揮毫した本作は、外陣中央に雲龍図を配し、右間に八大龍王、左間に韋駄天、内陣には蓮華・連弁・楽器・瑞鳥、左右の余間には飛天が描かれており、見るものを圧倒させます。



信楽院天井画(韋駄天図)

蠢く雲の中、仏舎利を盗んだ鬼を仏教の神・韋駄天が追いかける。